

94 B 21

特許庁  
実用新案公報

実用新案出願公告  
昭43-20636  
公告 昭43. 8. 30  
(全2頁)

開眼器

実願 昭43-563  
出願日 昭40. 11. 12  
(前特許出願日援用)  
考案者 出願人に同じ  
出願人 秋山明基  
横浜市中区山手町135  
代理人 弁理士 須藤忠

図面の簡単な説明

第1図は本考案に係る開眼器の一実施例を示す平面図、第2図は同上の縦断側面図、第3図a、bはレンズ体の他例を示す断面図と平面図、第4図は使用状態の説明図である。

考案の詳細な説明

本考案は眼科医を対象とした開眼器に関するものである。

従来、眼科医が開眼する場合指又はピンセット等で開眼していたため特に小児、乳幼児の開眼操作は極めて難かしく、仲々眼球の検査、治療個処の確認等が不正確であった。

本考案は叙上の点に着目して成されたもので特に幼児、小児等の眼部に当接して眼底検査、隅角検査、縁内障負荷試験等を行うに際し、簡単且つ正確に開眼できるようにすると共に更に開眼器主体の開口部には所望レンズ体を嵌着して拡大検査拡大試験を可能ならしめるようにした開眼器を提供することをその目的とするものである。

即ち本考案の要旨とする処は硬質アクリル系合成樹脂の如き透明合成樹脂を以つて円筒状の開眼器主体を形成し該開眼器主体の中央部を狭少筒部とし、上下部を夫々外方に向つて拡開した拡開筒部となし且つ上部拡開筒部を下部拡開筒部の開口比に比して小となし、而かも上下拡開筒部の上下端面には各々大小異なる大きさの山型切欠部を穿つと共に上部拡開筒部には狭少筒部に達し得る小レンズ体を装着できるようにして成る開眼器に係るものである。

次に本考案の一実施例を図面と共に調明すれば1は硬質アクリル樹脂の如き透明合成樹脂で成形される円筒状の開眼器主体、2は該開眼器主体1

の中央部に形成される狭少筒部、3、4を上下部を外方に向つて拡開させた拡開筒部で上部の方が下部に比しその開口比を小として形成してある。5、6は上下拡開筒部3、4の上下面に於いて穿つた山形切欠部で上部に比し下部の方を著しく大きく切欠してある。7は小レンズ体で第1図の如く表面をフラットとし裏面を凹設した形状のもの(眼底検査の場合)や、或は第3図a、bに示す如く表裏両面を夫々上方に凸設又は凹設して形成したもの(隅角検査の場合)或は側面を直状に折曲したものや内方に傾斜させて栓状に形成したものがあり、いづれの形状のものも開眼器主体1の上部拡開部3より狭少筒部2に達する個処まで着脱自在に押入嵌装できるようにしてある。

叙上の構成に基づき、本考案の作用を説明する。

小レンズ体7を嵌着させた開眼器主体1をその下部拡開筒部4をして第4図に示す如く所望の眼部に当接すれば開眼状態の眼はその開眼状態を保持して閉ぢる虞がないと共に透明な開眼器主体1により外部からは必要な光線は眼球部内に侵入し、適度に眼球内を照射し而かも小レンズ体7により拡大された状態で正確に眼の検査がなされ且つ故障個処を容易に知り得るものである。

本考案に拘れば、眼部当接に際しその山型切欠部が適度に眼の開き状態を規正し而かも小レンズ体も亦、山型切欠部によつてその着脱を彈性的に保持し得られるので被検者は全く安心して検査し得ると共に特に全体が透明体であるから外部の光線は幾分弱められて眼球内に侵入して照射し從つて眼に疲労感を与えることがないのみならず小レンズ体の構成により眼球内の細密な個処の拡大検査が可能となり而かも治療個処を適確に検出し得て特に眼科医用としての簡単な検眼器として好適である。

又、倍率を高めたい時は小レンズ体を交換することによつて簡単に得る実益をも有するものである。

実用新案登録請求の範囲

硬質アクリル系合成樹脂の如き透明合成樹脂を以つて円筒状の開眼器主体を形成し該開眼器主体の中央部を狭少筒部とし、上下部を夫々外方に向つて拡開した拡開筒部となし且つ上部拡開筒部を

下部拡開筒部の開口比に比して小となし、而かも  
上下拡開筒部の上下端面には各々大小異なる大き  
さの山型切欠部を穿つと共に上部拡開筒部には狭

少筒部に達し得る小レンズ体を装着できるように  
して成る開瞼器。

